

方や、一流の研究者です。このような方々から直接アドバイスを受け、コミュニケーションできるということは決して多くはないはずですが、このように考えると、質問等が全体的に少なかったことは少し寂しい気がします。外れた質問大いに結構です。誰も覗こうとしない裏側こそ、そこにワクワクする何かが潜んでいるかも知れません。型どおりのアプローチを大いに外れ、独創性ある研究に挑んで下さい。

また、発表会の準備には多大なる労力がかかったことを察します。関係した先生方、職員の皆様に慰労と感謝を申し上げます。すばらしい発表会ありがとうございました。

第3分科会

元ダイハツ工業株式会社 副社長 深森 芳昭

1. 分科会全体に対する講評

昨年に引き続き2回目の外部審査員として参加させていただき、気付き点をのべてみたい。まず昨年とくらべて進歩している点ですが、なんとといっても課題テーマについて、実際の「現地」に出かけて行って、「現物」をみようとする努力が多くのグループに見られることです。

昨年の講評でも記しましたようにテーマの実態は、書類で読んだことや頭のなかで考えていることと必ずしも一致しているとはかぎりません。

自ら汗を出して「現地」に赴きテーマの課題に挑戦しないと、自信のある提言などできません。私が育った自動車産業界ではこの「現地、現物、(現実)」を徹底的に叩き込まれます。日本の自動車産業界が今日の状態にある原点といっても過言ではありません。現在はコンピューターの進歩でバーチャルの考えが強いですが、いつまでも「現地、現物」の考えを忘れないでいてほしいと思います。

もう一つ進歩は発表の内容に厚みが見られることです。僅かの論及ですぐ結論、提言をだすことが少なくなりました。グループの各メンバーに課題を割り振って、夫々が研究を進めていけば十分なデータが揃うはずですが。

そうして、全員で討議し結論を導き出していく過程が大事なのです。

次に気になる点ですが、このテーマで「なにを狙い」、「なにが解決できればよしとするのか」をはっきりと、一番はじめに認識することが不足しているように思われる点です。出来れば資料にそのことを織り込んでほしいと思います。

最後に運営面で、フロアー出席者数についてですが、折角の発表が一般受けしないテーマのため極端に少ないケースがあった点です。

なにか改善策があればと思います。一考をお願いいたします。

2. 各グループに対する講評

個々のグループの発表については、「レフェリー審査結果報告書」にて当日も少しふれましたが、改めて気付き点を述べたいと思います。

①コンテンツビジネスと著作権について

一言でいって、非常に大きなテーマを取り上げて、消化不良になってしまったという感じがします。このグループ研究で、なにを限られた期間、文献等でとりあげるのかを「コンテンツビジネス」のジャンルのなかで最初によく討議すれば、もう少し間口も狭くなり、深く研究出来たのではないかとおもいます。

発表のまとめも聞いている人が「なるほど」と思えるような内容にするよう工夫してください。最先端テーマを取り上げた意気込みは評価に値しますが、グループ員の自己満足だけになったような気がしてなりません。

②由布院・黒川の町づくり～地域住民からみたブーム～

九州を代表する温泉観光地の課題について、わかりやすく、楽しく研究している点がよく伝わってくる発表でした。

パワーポイントの出来ばえも非常によく、見やすく、随所に入れた写真も効果的で、発表の見本になるといっても過言ではありません。

内容も論理は通っているのですが、どうもヒヤリングした先が当発表でいう「内部資本」の方に偏ったのではないかと疑うぐらい「外部資本」は悪と決め付けている点や、「外来団体客」に対しての冷たい表現が気になります。

もう少し、データを多面的に把握してください。そうすれば結論は違ったかもしれません。学生諸君の真直ぐな目で課題を捉え、提言をまとめてください。

そうすればもっと良い発表になったと思います。

③九州インバウンド振興と韓国人ゴルフツアー

私事で恐縮ですが、2004年に大分県中津市で新工場を立ち上げるための諸活動を通じて、九州によく訪れた際、ハングルの表示がいたる所にあるのに驚いたことがあります。関西、大阪と比べて隣国韓国とのつながりが九州には強いことを認識したのですが、今回

の当発表であらためてその感を強めた次第です。

本題に戻りますと、当発表は非常に豊富なデータ集めにまず感心しました。メンバーが自ら足を運び、直接多くの韓国旅行者、ゴルファーにインタビューを試み、詳細にデータを分類して、ゴルフ目的の韓国人旅行者の特徴を浮き彫りにして、提言につなげている点が評価できます。

あえてもう少し欲をいえば、韓国自体のゴルフビジネスの実態にせまり、そこからくる九州の位置付けをはっきり認識したうえで、提言につなげておればもっと迫力のあるストーリーになったのではないかと思います。

④九州産業大学の学食について～魅力ある学食～

身近なテーマを取り上げていながら、ストーリーがあまり平凡にならないような資料の構成になっていたのがよかったです。

さらに最後の提案に「外食産業の導入」を訴えている点が学生らしく、フレッシュな感じがします。

ぜひこの発表を学校当局に持ち上げて、「魅力ある学食」に一步でも近づけて欲しいと思います。

最近「食育」という言葉がよく聞かれるようになりましたが、まさに大学生活のなかで「学食」を通じて「食育」をより高めるための活動を、学校当局も考えることは大事だと思います。その際この発表をぜひ尊重してほしいと思います。

⑤フードバンク～フードバンクは社会に必要なか～

「日本は世界一の食料を捨てている国」に着目し、解決策としてのフードバンクの拡大を主張し、その裏づけに採算を持ってきた点はユニークさがあり、時流をよんだいいテーマで興味深く拝聴しました。

しかし内容の中心が採算に走ってしまった点がもの足りません。採算は論理の押さえとしては必要ですが、論及のメインではない筈です。

高い志が感じられるような内容にできるテーマを選択しているのですから、その点をつつこんでいけば薄っぺらな結論にはならなかったと思います。

最初にこのテーマでなにが問題で、なにを研究し、なにを訴えればよしとするか十分メンバーで話し合っただけでスタートを切ることが大事です。

3. おわりに

発表された各グループの皆様、ご苦勞様でした。当発表に至るまでのご努力に敬意を表したいと思えます。発表に対する成績は別として、この経験は学生生活の大いなる成果として、かならず役立つと確信いたします。

日本人の欠点の一つに、自分の考えを理路整然と主張できない点があります。グループ研究発表会を通じて、自分の考えを論理的に整理し堂々と発表できるスキルを学んで下さい。この発表会のますますの発展を祈念し終わりとさせていただきます。

沖縄国際大学産業情報学部 専任講師 木下和久

1. 分科会全体に対する講評

今回初めてグループ研究会へ参加させていただきました。事前に頂いた報告原稿を読ませていただいた中には、正直どうなることかと不安な研究もありましたが、当日の発表は、予想を良い意味で裏切る面白い報告になっていました。全ての報告が、様々な課題に対して調査・検討を行い、結論・提言へと至っており、とても刺激的で有意義な時間をすごすことができました。

一言あるとすれば、研究であと一步、報告であと一步すすめたらもっと良いものになっていたに違いない、というグループが多くあったことです。高い評価を得たグループは、この一步ができた所であったと思えます。

2. 各グループに対する講評

①コンテンツビジネスと著作権について

最近話題となっており、とても身近な問題ですが、同時に様々な利害関係者が対立しているため解決するのが非常に難しい問題だと思われれます。この難問を選び果敢に挑戦されていることは評価できます。また、組織・技術・法律といった複数の観点から検討を行なっている点についても評価できると思えます。

一つ目の問題点は、題名と中身との相違です。題名では「コンテンツビジネス」としているのに、技術的説明は「音楽」のみに限定されています。また最初に「わが国における」コンテンツビジネスの重要性を指摘しているにもかかわらず、「アニメ」等を含む日本が誇るコンテンツビジネスについて全く言及がなく議論が進められてしまったのは惜しまれます。

また著作権問題の指摘に関しても、なぜ問題なのかといった根本的な点に対して、ほと

んど検討がなされないまま、解決への議論へと入ってしまっている点や、最後の結論に至る過程が飛躍しており、結論自体も一般論に終わっているように思えます。テーマを狭い範囲に限定するなどすれば、より深い検討を行なえたのではないかと思います。

②湯布院・黒川のまちづくり～地域住民から見たブーム～

湯布院と黒川という代表的な温泉地を、歴史的経緯、プラス効果とマイナス効果、固有の課題など、効果的に比較しながら説明が行なわれており非常にわかりやすかった。また、最終的な提言まで議論が出来ていたのはよかった。

ただ、「まちづくりの定義」という議論の出発点であり非常に大切な部分について、説明が足りないように思いました。研究にあたっては、事実調査や聞き取りなどを自ら行なったようで、それ自体は評価できます。しかし、調査結果の解釈については、一面的な理解しか行なわれていなかったのが残念です。調査結果の裏にある本質は何かについて、もっと検討してほしかった。この事は結論である提言においても同様に言えることで、温泉地としての競争力の源泉であるコアが何かを見極めるような、本質的な考察が行なえれば、より良い議論になったと思います。

③九州のインバウンド振興と韓国人ゴルフツアー

九州への観光客のなかで、韓国人ゴルファーに着目・分析をし、顧客価値の高さ、九州の観光業に対する意義などを指摘するなど、着眼点は非常に良かったと思います。また、調査も非常に多くの項目についてなされており驚きました。

ただ「インバウンド」という重要な用語に対する説明がなされなかったのは残念です。また、ゴルフ客と一般的観光客という比較は良かったのですが、一般的観光客の数値の中に、ゴルフ客の数値が含まれたままで両者の比較を行なっていたのは惜しまれる所です。様々な資料・調査結果を収集し検討することはとても良いことなのですが、今回の報告では、提示する資料の数が多すぎ、また説明も不十分であったように思われます。その結果、重要な点・資料の意味についての指摘が不十分となり、結果的に焦点のぼやけたものになってしまったと思われます。

韓国人ゴルファーに着目し、検討を行なった点は良かったが、結論は一般的観光客を対象としたものと同様なものに終始しているように思えました。韓国人ゴルファーに訴求するための結論まで到達できていると良かったと思われます。

④九州産業大学の学食について

身近な問題に着目しながら、現状を改善しようという意欲にあふれており、他大学の実態調査などを行なっている点は評価できます。食に対する意識の変化を、過去・現在・未来について検討し、学食・学生・学校という3者に着目して結論づけている点も面白かった。

ただし、他大学については良い点のみ、九産大については問題点のみを指摘するに終わっており、他大学の問題点、九産大の良い点にはふれられておらず、一面的な議論になっている点が惜しまれる。また他大学の「良い点」とされた中には、問題点の裏返しではないかと思えるものも含まれており、調査結果についてより深く、また様々な立場からの検討がなされていればと思われます。今回の研究が、単なる報告として終わるのではなく、大學生生活の質を改善した実例となるように期待しております。

⑤フードバンク～フードバンクは社会に必要か～

まだ日本ではマイナーと思われる組織に着目した点、フードバンクがNPOであるという前提に疑問を持ち、営利企業として活動はできないかという発想に基づき検討を行なったのは、非常におもしろく評価できると思います。

ただ、現状は非営利で活動している、もしくは、非営利であるから活動できる、しなくてはいけない、という現実には全く触れないまま、結論へと至っている点は、再検討が必要だと思われます。NPOが生みだしている価値を「金額」ではないもので評価するなど、もう一步議論を進めることができれば、意義深い研究になったと思われます。

3. おわりに

グループにより調査の量・質など差があるものの、それだけがグループ研究に対する評価の決定打とはなっていないように思います。どのグループもよく頑張っていると思いましたが、調査結果に対してどれだけ深く考察を行ない、評価・解釈しているかについてはまだまだ不十分だと思われます。調査結果に対する多面的な検証が不足したまま、安易に一般論と同様の結論・提言へと至っているのみで、「本質」は何かについての考察がほとんどなされないまま終わっているのが現状だと思われます。難しいかもしれませんが、これは大学だからこそ学ぶことができることだと思えます。今後の皆さんの健闘に期待しております。